



特集

新庁舎からはじまる、これからの大泉町のまちづくり

大泉町 企画部 財産管理課

大泉町では、新庁舎を中心拠点として、防災・行政・協働・にぎわいがつながる、未来を築くまちづくりを進めていきます。

■「行政の拠点」から「まちづくりの拠点」へ

大泉町では、令和8年5月に新庁舎の供用を開始しました。新庁舎の整備にあたっては、単に老朽化した庁舎を建て替えるのではなく、これからの大泉町の「まちづくりの中心拠点」とすることを目指しました。

新庁舎は、町民の皆さまへ行政サービスを提供する場所であると同時に、災害時には町の防災拠点として重要な役割を担います。災害対策本部として迅速に対応できる機能を整えるとともに、災害時にも行政機能を継続できるよう、建物の安全性や設備面についても防災の視点を取り入れています。



大泉町新庁舎 外観

■ 町民の参画と協働を支える庁舎



多目的ホール

一方で、私たちが目指したのは「災害に強い庁舎」だけではありません。新庁舎を行政だけが利用する施設とせず、町民の皆さまが訪れ、交流し、まちづくりへ参画いただける、協働の場所とすることも大切にしました。

そこで、屋内外一体となった様々な使い方に対応するために、屋内の町民エリア（多目的ホール・ロビー・待合スペースなど）と屋外の広場等の連続的な利用が可能となる配置としました。加えて、町民の多目的な活用に柔軟に対応するため、各会議室には可動式の什器や間仕切りを採用し、様々な大きさに変えることのできるフラットな空間として整備した上で、会議室等の貸出しを実施しています。

■ 新庁舎と周辺を一体的に整備

新庁舎の整備に続き、庁舎南側へ、多目的広場や公衆トイレ、周辺道路の整備を進めています。多目的広場等を新庁舎と一体的に整備することで、庁舎を訪れる人だけでなく、地域の方々が気軽に立ち寄り、イベントや交流などにも利用できる「開かれた公共空間」の創出を目指しています。

また、新庁舎だけを一つの施設として捉えるのではなく、周辺の公共空間や道路、既存施設とのつながりを意識し、「点」の施設整備から「面」のまちづくりへと広げていくことも重要だと考えています。



多目的広場予定地

■ 完成はゴールではなく、新たなスタート



新庁舎の様子

町民や職員に親しまれ、日々の活動を通じて「育っていく庁舎」を目指しています。

新庁舎は、完成したことがゴールではありません。これから実際に使いながら、町民の皆さまや職員の声を取り入れ、より使いやすく、より親しまれる施設へと育てていくことが大切です。

そして、新庁舎を起点として、人が集まり、人と人がつながり、新たな活動やにぎわいが生まれることで、その効果が周辺地域にも広がっていくことを期待しています。

